

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4312810734		
法人名	社会医療法人 ましき会		
事業所名	益城病院高齢者グループホーム ふるさと		
所在地	熊本県上益城郡益城町福富849番地2		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村報告日	令和3年 2月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和3年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・益城病院が母体であり、認知症における専門医や専門スタッフ・法人内内科とも連携しながら、適切な介護と医療の提供が出来る。 ・院内外の研修など積極的に参加し、認知症実践者研修・リーダー研修も多数の職員が受講し専門的知識を習得し、現場に活かしている。また、ふるさと内での定期的勉強会を実施し個々の介護の質を高める努力をしている。 ・毎月の防災訓練や防災備品の点検を行い、非常時への対応に努めている。 ・福利厚生が充実しており、休暇も取れやすく、託児所がある事で、子育て中の職員など安心して仕事ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>熊本地震後、隣接の母体医療機関の移転があり、地域との連携がこれまで以上に大きくなったこの数年ですが、今年度の感染症対策の面から入居者と地域との関わりが難しい状況であった様子が聞かれました。そのような中、職員と地域との連携継続、職員の体制作り、職員育成、入居者に対する対応等、「入居者の笑顔のため」の取組みが窺えました。入居者の状況を職員間で話し合い、経験を踏まえた上での対応等、事業所全体で良いケアを目指し、入居者一人ひとりを大切にケアが行われています。今年度は事業所内で過ごす時間が多い入居者のため、入居者から家族への葉書作成、模擬買い物等、催事にも工夫を凝らした取組みが行われています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、いつでも確認出来る様にしている。理念に沿って事業所・個人の目標を立て実践・成果に繋げている。	「みんなが笑顔で暮らせるように」を介護理念としてケアに取り組んでいる。毎年、法人の思いを基に事業所目標を立て、更に個人目標を持つことで理念を実践に繋げている。	職員の個人目標は「チャレンジシート」として達成に向けている様子が聞かれました。理念と個人目標の関係性を振り返りの機会として持たれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行前は、地域のサロンなど行事に参加したり、清掃活動を行っていた。保育園との交流・地域のヘアサロンに出掛けるなど地域の交流に努めた。	従来から地域との関わり作りに取り組んできたことにより、例年、公民館活動(サロン)への関わりや参加、子ども連との交流等を行っている。今年度は感染症対策の面から、入居者と地域との交流は難しい状況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の症状・対応方法を伝えるなど認知症への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年は1回のみ開催。2カ月毎に書面で状況をお知らせしたり、意見を頂いている。	隔月の運営推進会議日には家族会を開催することで会議への家族参加も多く見られ、意見交換の場ともしていた。今年度は資料配布による開催を余儀なくされている回もあるが、地域のメンバーには資料を手渡しし、地域との関係性を大切にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に情報交換・連絡・相談などを行ったり、助言を頂いている。運営推進委員さんに対し、施設の取り組みや悩む事象については、相談するなど関係構築に努めている。	日頃の報告・連絡・相談や運営推進会議への参加で協力関係の構築に取り組んでいる。毎月役場を訪問しており、日頃の取組み等を直接伝え、相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回は身体拘束廃止委員会を実施。指針を作り、職員全員で周知し、ふるさと内や法人内での勉強会を実施し、日々のケアの実践に取り組んでいる。	地域住民や主治医等、職員以外の委員も構成員である。委員会では事業所の取組み等報告や勉強会を行っている。職員皆が良いケアを目指し、目の前の入居者一人一人を大切にすることを基としたケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ふるさと内・法人内での勉強会実施。権利擁護について話し合う機会がある。職員のストレスチェックを行い、ストレスケアを行っている。自分のケアの振り返りにもなり、虐待防止に努めている。		

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ふるさと内で勉強会を実施。現在後見人制度利用中の利用者さんについては、後見人さんに適宜連絡を取り合い、担当者会議の目標を作りながら、利用者さんの生活について一緒に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時及び内容が変更した際は、家族に十分説明し、理解・納得をしてもらっている。必要時は、文書にて同意を得ている。不安や疑問点、心配事に対し都度相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し、担当者会議や電話で、定期的に意向の確認を行っている。利用者さんにも日常的に気持ちを確認する様になっている。	家族面会や家族会・運営推進会議、担当者会議等、家族来訪時を利用し職員から声を掛け、意見を表せる機会を設けている。今年度は関係の構築に取り組んでいるものの面会が難しい状況であり、電話等を利用して入居者の状況を伝え、家族とのコミュニケーションを図っている。	従来家族の来訪もよく見られ、関係作りに努めている様子が窺えました。今年度は家族との電話連絡・報告等行われていますが、このような時期であるからこそ、意見をを得る機会作りの工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートやNotesメールを使用し、職員が直接意見を言える機会を設け、働きやすい職場環境を作っている。ふるさと内では、毎月の全体会で意見を言える場を設けている。上司面接の機会もある。	管理者による年2回の面談、毎月の職員会議等、個別に意見を表すことが出来る。日頃の業務中においても、管理者からも職員へ声を掛けており、法人・事業所全体で働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のチャレンジシート・行動指針による自己評価・上司評価と、部署目標達成度報告を行い、昇格・昇給・手当等への反映。福利厚生充実により安心して働ける職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	課業の活用・育成研修の実施。個々が達成感を感じられる役割の分担。法人内外の研修の機会を作り、スキルアップへと繋げる。(web研修・zoom研修)ふるさと内でも、各々が担当し、毎月勉強会を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内・多職種と事例検討会や研修を通して意見交換する機会を作っている。近隣施設の内覧会へ参加したり、zoom等を利用して、各専門職種との交流・意見交換。		

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をしてもらっている。病院や施設へも事前訪問を行うなど、入居前から本人・家族との関係構築に努め、安心して入居出来る環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の状態についてこまめに報告したり、家族の話に耳を傾け、アドバイスを行うなど家族の不安解消に繋げ、信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・ケアマネ・入居前に利用していたサービス関係者と一緒に、今必要な支援は何かを話し合い、デイケアや訪問看護など多様なサービスも含め対応できる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、家事手伝い(茶碗洗い・台拭き・掃除)など、一人ひとりの力に応じた作業や特技を一緒に行う事で、暮らしを共にする関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に電話で入居者の状態報告を行っている。行事参加の呼びかけや他科受診付き添いをお願いします。一緒に行っている。コロナ禍での面会制限中は、写真付きのハガキを送付し、家族の気持ちに寄り添うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのバスハイクを利用して、住み慣れた町の四季折々を見る機会を作っている。近所の神社などへの散歩を行っている。日常会話の中で、馴染みの地名や場所の話題になる。	従来、家族だけでなく、地域や知人の来訪も歓迎し、関係継続を支援してきた。今年度は少人数でのバスハイク外出や、入居者から家族宛の葉書送付等、工夫を凝らした関係継続の機会作りに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わりあえ、良い関係を築けるよう努めている。関係性を把握したテーブルセッティングといった環境調整を行っている。		

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為、退居先の施設・病院への訪問が困難になっているが、電話や職員間での情報交換に努め、必要な相談支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、モニタリングの際には、家族からも希望を聞きケアプランへ反映させている。本人の言葉で確認が困難な場合は、家族と話し合い本人にとってよりよい支援を検討している	入居者の思いや意向は、日々の寄り添いで把握している。「笑顔で暮らせるように」を理念としており、毎月の会議で入居者の様子について検討し職員の経験・意見を出し合い、入居者のより良い生活に向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・入居前サービス関係者の協力のもと、入居前の暮らし方を聞き取りし、24時間生活シートを活用する事で、生活歴や環境を把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努め、一人一人の能力に合った生活の場を設け、張り合いのある生活が送れるように努めている。状態変化については、電子カルテにて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、担当スタッフがモニタリングを実施している。希望や意向は、本人には日頃の関わりの中で尋ね、家族へは面会や電話にて尋ねている。定期的にモニタリングを行い、入居者の現状に即した介護計画への繋げている。	入居者それぞれの担当職員が中心となり家族への関わりから本人・家族の意向を把握しており、モニタリングも年2回程行っている。毎月の職員会議ではケア会議も行っている。入居者の日々の状況により変化が見られた際には、現状に即した介護計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態を電子カルテを使用し共有している。他関連機関や家族への報告も都度記録している。電子カルテ以外にも、日々の申し送り・連絡ノート・管理日誌なども用いて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に沿ってサービスを提供しているが、急な他科受診で家族の対応困難な場合は、必要に応じて通院介助や買い物支援などにも対応。デイケア・訪問歯科・訪問看護・訪問販売などのサービスも今はコロナ禍で制限もあり。		

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアへの参加、訪問販売(パン・ヤクルト)新聞の定期購読、ドライブで外出しおやつ購入、病院の売店利用、訪問歯科や理美容の利用、傾聴ボランティアの来所など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切に、家族同伴での受診を継続できる様にしている。定期的な法人主治医の訪問診療や法人内内科を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居以前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。現状ではかかりつけ医により職員介助による通院が多い状況ではあるが、医療機関によっては家族介助による通院を依頼している。入居者によっては訪問診療の受入れも行っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサイン測定や本人の状態を電子カルテに記録し、必要時は職場内看護師へ報告。訪問看護の利用も出来る。緊急時・夜間等は法人の看護師へも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は診療情報提供書や看護・介護サマリーを提供。入院先へ訪問し情報交換に努め、相談員とも連携を取り安心した入院生活が送れ、スムーズな退院へ繋がるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時や終末期の意向を本人・家族へ聞き取りする。ケアプランの更新時も、都度変更がないか確認している。令和2年2月1Fにて看取りを行った。	入居時、重度化・看取り時の事業所の方針について説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には関係機関を交えて話し合いを重ね、家族・本人の希望により対応している。法人医療機関や近隣の医療機関、訪問看護等により協力体制を整え支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ふるさと内で、緊急時の対応について勉強会を実施。緊急時のマニュアル・緊急時の連絡網の整備をし、いつでも対応できる体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練(火災訓練・地震訓練・夜間想定・図上訓練・シューター訓練など)を実施し、職員全員が災害時適切に対応できるようにしている。毎月防災備品の確認を実施。防災担当者は地域の防災会議と連携している。	従来より防災への意識を高く持ち取り組んでいる。昨年の運営推進会議でもテーマを掲げ地域での取組みの共有、意見交換、災害実演、非常食の試食等を行った。地域防災会議にも職員が参加している。	

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ふるさとの理念をもとに一人一人の人格を尊重し、尊厳が守れる様な接し方・言葉づかいを心掛けている。	事業所介護理念の1項目にプライバシーの尊重、安心と尊厳が保たれた生活の実現が掲げられており、取組んでいる。入居者それぞれに合わせた言葉遣い・対応が行われており、年間研修には接遇も取入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員判断ではなく、都度本人の意思を確認し自己決定へ繋げている。利用者の意思表示を待つ事、表現できるよう思いをくむケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に24時間シートを活用し、生活リズムを把握し職員間で共有。入居前の生活リズムを尊重。また本人が活動や入浴など何をして過ごしたいか尋ね、希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや季節に応じた衣類を準備し、着用できる様支援。入浴後の整容や行事の際の化粧の支援。履物は歩きやすい物を支援。自分で出来ない方にも職員が支援している。訪問美容室によるカットなど。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の調理の日や、おやつ作り・誕生会で職員と一緒に献立を考え、季節の物や食べたいものを調理している。一人一人が能力に応じた出来る事を一緒に行う事で、達成感へ繋げている。	毎日の食事は配食であるが、手作りの汁物や一品も取入れている。毎月ユニット毎に誕生会や催し物を利用し入居者と共に調理する日を設けることで、入居者それぞれの関わりに思わぬ発見する場面もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を毎回確認。その人の摂取量に応じて定期的な体重測定を実施。電子カルテで記録に残している。嚥下機能を把握し、適切な食事形態で提供。嗜好品を活用し飲水量の確保。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、声かけや見守り支援し毎食後の口腔ケアを行っている。必要に応じて、職員が仕上げの支援を行い、口腔衛生の確保。義歯については、洗浄後洗浄剤を使用し清潔を保持している。訪問歯科利用も。		

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握。言動の観察をしタイミングを見て誘導。重度の方も複数職員でトイレでの排泄支援を実施。その日・その時に合うオムツ・パットを使用。各勤務の交代時は、最終排泄の申し送り。	排泄リズムの確認をしながら入居者の表情・動きを把握し出来るだけ自立に向けた支援を基本としている。オムツ・パット等の利用開始、使用するパット類の変更が必要な際には職員間で話し合いを行い、入居者の個々の状況に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量の把握。水分摂取の促しや乳製品の提供。体操や散歩・立位訓練などの軽運動実施。腹部状態の確認と必要時はマッサージの実施。便チェック表を活用し情報を共有し、緩下剤を使用し、排便コントロールを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人が好む時間や温度で入浴できる様心掛けている。必要な方にはリフト浴で安全に入浴を実施。同姓介助を行い、配慮している。入浴日以外は足浴を実施したり、清潔保持に努めている。	週2回以上の入浴を基本としている。片方のユニットにリフト浴が設置されているため、現状全入居者が浴槽で入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や室温の調整を行い、快適な睡眠確保に努めている。必要な方には、午睡や休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の把握。一日分の薬準備は必ず、ダブルチェックを実施。与薬の際にも、ダブルチェックを行い、支援している。状態変化時は、主治医報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やADLに応じた活動や運動、役割(血洗い・掃除)と一緒に、張り合いや喜びの支援。身体を動かす事が難しい人へは、歌詞カードや名言集等作成し一緒に歌い読み上げるなど、多様な方法でコミュニケーションをとっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で外出は難しい状況が続いているが、バスハイクや天気の良い日に施設周辺の散歩へ行ったり、施設外でおやつを食べる時間を作ったり、戸外に出る機会を支援している。	季節の花見ドライブや日々の近隣の散歩等を支援している。例年、外食や計画による外出を楽しんでいるが、今年度は難しい状況であった。職員と庭掃除をしたり、天気の良い日は庭に出たりと外気を感じる支援を行っている。時には買い物模した行事等により、外出気分を味わう工夫もしている。	

益城病院高齢者グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方は、家族・本人・職員で話し合い、所持できる環境を整えている。コロナの影響で、外へ行く機会は少なくなったが、嗜好品は代理購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用できる様に支援。本人希望で携帯を所持している方もいる。手紙のやり取りは定期的に行い、希望があれば都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、動きやすい環境整備に努めている。庭には季節の木や花を植え、花を活けるなど利用者さんと一緒に工夫している。	掃除の行き届いた共用空間は入居者の動作にも配慮している。1時間おきの換気、日に2回の手摺り等の拭き消毒を行い、感染症予防にも取り組んでいる。全員が集まる居間のテーブルに感染予防の亚克力板をたてるなど、法人全体で感染症予防に取り組んでいることから、連携、協力体制もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、自由に過ごせるソファ・談話する場所を設けている。気の合う利用者同士のテーブル配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持って来てもらう。写真や自分で作った作品を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	洗面台と押入れが設備された居室には、入居者それぞれの生活歴により、家族の協力も感じる馴染みの家具や生活用品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り、ベッドそれぞれに合った環境にしている。目線に合わせ、時計や表札を表示している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホームふるさと

作成日 令和 3 年 2 月 8 日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	コロナの時期であり、一方向の発信にとどまっているので、意見を得る為の工夫が必要。	ご家族や地域の方々からの意見を反映した運営が出来る	毎月、ご家族や関係機関・推進会議委員の方々からの要望や意見を頂き、運営に反映する。	12カ月
2	1	理念と個人目標の振り返りの機会が明確になっていない。	理念の共有と個人目標の振り返りを行い、実践しより良いケアの提供に努める	前期・後期の振り返りだけでなく、中間の見直し時にも、一緒に振り返りを行い、実践・成果に繋げる	12カ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。